

令和元年度（令和元年12月実施）

「読書に関する調査」のまとめ

学校教育課通信

令和 2年 3月17日 第156号
編集・発行：県南教育事務所 板橋竜男

令和元年12月に実施した「読書に関する調査」の県南域内の調査結果です。今回の結果を各学校での読書活動の推進、充実に役立てていただければ幸いです。なお、各市町村教育委員会及び各小中学校におかれましては、調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

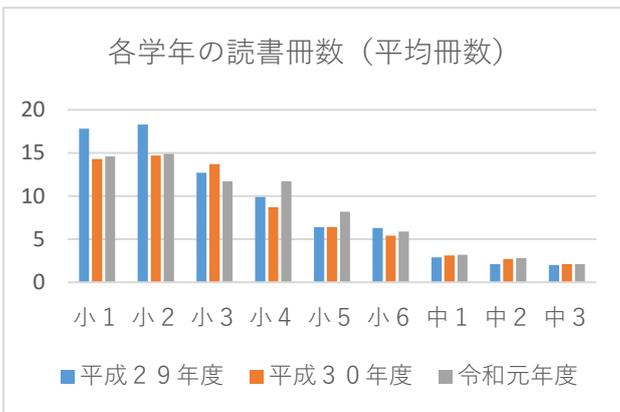
<令和元年度の調査結果及び過去2年間との比較と考察>

- 人員 域内全小・中学校全学年（1学級抽出又は全学級）
計 7,675人（域内全小・中学校在籍者の76.2%）
（ピンク……3年間で一番よい 青……3年間で一番低い）



1 平均読書冊数について（単位：冊）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
平成29年度	17.8	18.3	12.7	9.9	6.4	6.3	2.9	2.1	2.0
平成30年度	14.3	14.7	13.7	8.7	6.4	5.4	3.1	2.7	2.1
令和元年度	14.6	14.9	11.7	11.7	8.2	5.9	3.2	2.8	2.1



- 3年間で比較すると、平均冊数が増えている学年も見られる一方で、学年が上がるにつれ、読書冊数が減少傾向にある。中学生の読書冊数は、過去2年間と比較して多いものの、2～3冊と小学生に比べ、少ない。下記の「読まない理由」をもとに、国語科の授業にとどまらず、様々な教科や調べ学習で本に触れる機会を増やしていくことが大切である。

「本を読むきっかけ」の主なもの

項目	小学生	中学生
友達に紹介された	4%	8%
学校の図書館で見つけた	57%	13%
公共の図書館で見つけた	10%	7%
本屋で見つけた	10%	55%

- 「本を読むきっかけ」では、小学生は「学校の図書館で見つけた」が、中学生は「本屋で見つけた」がそれぞれ割合の半分以上を超えている。中学校でも学校図書館の整備が進んでおり、学校図書館を活用した授業や調べ学習の機会を取り入れ、学校図書館の活用を進めたい。

「本を読まない理由」の主なもの

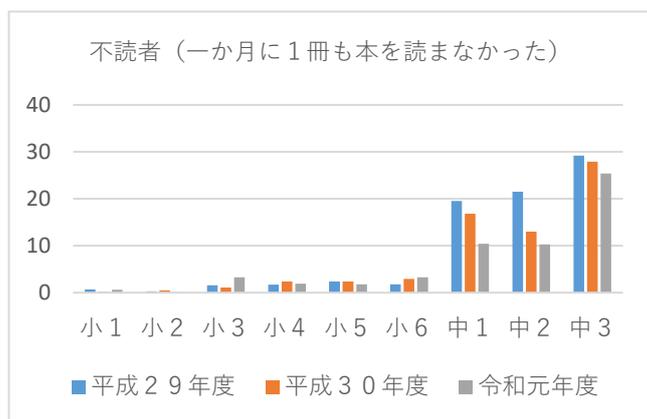
項目	小学生	中学生
勉強・塾・宿題などで忙しい	13%	17%
部活動等で時間がない	6%	5%
テレビ・ゲームの方が楽しい	18%	10%
スマートフォン・携帯の方が楽しい	3%	17%
雑誌やマンガの方が好き	22%	18%
本が嫌い	6%	6%

- 「本を読まない理由」として、小中学校ともに雑誌やマンガの方が好き」が最も多く挙げられている。本に対する嫌悪感を持つ児童生徒はいないため、朝の読書や授業等で本に出合わせる場面を意図的に設定したり読書紹介を行ったりする機会を設けていきたい。

2 【不読者（1か月に1冊も読まなかった）の割合】

（単位：％）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
平成29年度	0.7	0.3	1.6	1.7	2.4	1.8	19.5	21.5	29.2
平成30年度	0.2	0.5	1.1	2.4	2.4	2.9	16.8	13.0	27.9
令和元年度	0.6	0.1	3.3	1.9	1.8	3.3	10.4	10.3	25.4



- 小学校では、全ての学年で不読者の割合が4％未満、特に低学年では1％を切っており、ほとんどの児童が読書に取り組んでいることがうかがえる。
- 中学校では、昨年度の調査では不読者が増加したが、今年度は減少しており、各学校での取組の成果が表れている。さらに生徒の自主的な生徒会活動（図書委員会）などの活性化と関連させるなど主体的な読書活動につなげていきたい。

3 【多様な読書活動について】

- 校内で読書活動推進の取組を行っている学校（小学校37校、中学校18校）

※ 取組の内容（複数回答可）

項目	小学校	中学校
図書の読み聞かせ・ブックトーク等	36校	5校
読書感想文コンクールの実施	23校	10校
必読書・推薦図書コーナーの設定	26校	15校
目標とする読書量の設定	20校	4校
その他	12校	4校



- 県南域内すべての小・中学校で「読書活動推進の取組」が実施されており、その取組が不読者の減少に効果的だと考えられる。特に小学校では、家庭や地域の方への協力を図り、「読み聞かせ」を行うなど「社会に開かれた教育課程」の一端となっている。

- 学校図書館司書教諭やサポートティーチャーを活用し、季節や学習状況に応じた図書コーナーの充実を図っている学校が多く見られる。今後は、各教科等の学習を通して、学校図書館を活用した記録、説明、批評やレポート作成、プレゼンテーション等の言語活動との連携を図った読書活動の推進が求められる。
- 読書活動推進の一環として、県では中・高校生による「ビブリオバトル」が実施されている。県南域内の中・高校生も参加している。教科横断的な教育課程を編成し、学級や学年、学校全体で国語科や総合的な学習の時間などの時間を活用して、「ビブリオバトル」や「読書紹介」等を実施していくことも効果的な読書活動として考えられる。

※ 新学習指導要領でも、「各教科等において、学校図書館の機能を計画的に利活用し、児童生徒の自主的・自発的な学習活動や読書活動を充実するよう努めることが大切である」とされています。特に、国語科の[知識及び技能]に「読書」に関する指導事項が位置付けられており、国語科の学習が読書活動に結びつくよう発達段階に応じて系統的に指導することが求められています。学校図書館の利活用と合わせて、児童生徒の読書活動の充実を図っていきましょう。



